

## 岩 手 県 金 融 経 済 概 況

### 1 . 概 況

県内の景気は、3月中旬の東日本大震災により、沿岸地域が壊滅的な被害を受けたほか、地震の直接の被害が比較的軽微であった内陸部にも、物流面の混乱、原材料・部品調達難、消費者の自粛ムードなど様々なかたちで間接的な被害が及んでおり、県経済全体があらゆる面で極めて大きな打撃を受けている。

現在、復旧に向けた懸命の取り組みが進められているが、生産・営業用設備や物流ネットワークの再構築には、相応の時間を要するものと考えられ、経済活動面での制約から当面悪影響が続くことが懸念される。

### 2 . 最終需要

#### (1) 個人消費

個人消費は、東日本大震災のあと、3月中は、営業用設備の損壊、燃料不足と物流面の混乱に伴う物資供給不足、店舗営業時間の短縮など、営業活動に様々な大きな制約が生じたことから、大幅に減少したとみられる。4月入り後は、こうした制約が解消していくにつれ、これまでの反動もあって、食料品や家庭雑貨を中心に持ち直しつつある。

なお、3月中の新車登録台数は、前年比半減（54%）となった。

#### (2) 公共投資

公共工事請負金額は、3月まで、前年を下回って推移している。

#### (3) 住宅投資

住宅投資は、昨年前半に持家・分譲を中心に底入れし、その後は持ち直しの動きが貸家にも広がりつつある（住宅着工戸数は、2月まで5カ月連続で前年を上回った）。

なお、東日本大震災により、県内の住宅は約2万戸全半壊したとみられている（県災害対策本部公表）。

### 3 . 生産動向

3月中旬の東日本大震災以降、沿岸部の生産施設が壊滅的な被害を受けて生産を停

止しているほか、施設損傷が比較的軽微な内陸部の生産施設でも、物流面での大きな混乱や燃料不足もあって、生産継続に必要な原材料・部品の確保が困難になったことから、生産水準を大幅に低下させた。

足許、施設損傷が比較的軽微であった先を中心に、生産再開の動きが徐々にみられているが、4月7日に発生した大きな余震で再び施設が損壊して生産再開時期の後ずれを余儀なくされる先がみられたこともあって、生産の持ち直しテンポは緩やかなものに止まっている。

#### 4. 雇用・所得の動向

雇用情勢は、有効求人倍率、新規求人倍率が2月時点で約2年半ぶりの水準にまで回復（各0.50倍<20年10月以来の水準>、0.86倍<20年7月以来の水準>）、常用雇用者数も1月に約2年ぶりに前年を上回り、雇用者所得もゆるやかに伸び率を高めるなど、改善傾向を続けていた。

#### 5. 企業倒産

企業倒産は、金額面では大口倒産のみられた昨年12月、本年3月には前年を大きく上回ったが、件数ベースでは総じて前年を下回って推移している。

#### 6. 金融面の動向

預金は、個人預金の堅調に支えられて、前年を上回って推移している。一方、貸出は、年明け後、地方公共団体向け融資の増加を背景に下げ止まりを示し、2月末残高は、10カ月ぶりにわずかながら前年を上回った（前年比+0.1%）。この間、貸出約定平均金利は低下を続けている。

日本銀行盛岡事務所が供給した日本銀行券は、東日本大震災発生後、県内の現金需要が急速に高まったことから、前年に比べて大幅に増加した（3月12～31日の発行高、本年535億円、前年130億円）。

また、東日本大震災で被災された方々の利便性を高める観点から、これまで日本銀行の本支店のみで行ってきた損傷した通貨（紙幣、硬貨）の引換えについて、岩手県盛岡市に「臨時引換窓口」を設置し、4月20日から引換えを開始した（本支店以外に臨時窓口を設けて損傷通貨の引換を行うのは初めて）。

以 上

本件に関する問い合わせ先 日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） <a href="http://www3.boj.or.jp/morioka/">http://www3.boj.or.jp/morioka/</a>
---